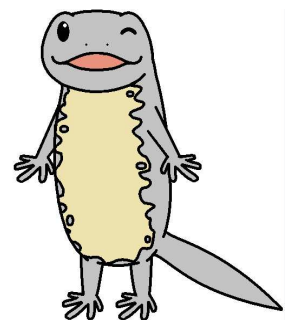


第2章 第2期環境基本計画の概要

計画の目標と進捗状況について、説明するモリン。



第2期環境基本計画の概要

1. 本市の望ましい環境像

今日、これまでの大気汚染等の公害問題や都市化の進展、生活様式の変化による廃棄物の増大、騒音問題といった地域的な問題のほか、地球温暖化、資源・エネルギー問題等の地球規模の問題が深刻化しています。

とりわけ、東日本大震災以降は、除染等による環境回復や地域における再生可能エネルギーの供給システムの確立、環境と社会との共生・持続可能性の仕組みづくりが求められています。

また、平成27年（2015年）9月、国連総会において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、国際社会が持続可能な社会の実現のために取り組むべき課題として「持続可能な開発目標（SDGs）」が示されました。この中で、環境問題は、経済的・社会的な課題と相互関連し、不可分であることが明記されています。

本市においても、地球環境の保全や地球温暖化防止、都市型公害を含む様々な公害等に対応しながら、本市の豊かな自然環境を健全で恵み豊かに将来の世代に引き継ぐことと、東日本大震災からの地域経済の活力再生や地方創生に向けた取組との調和を図っていく必要があります。

本市では、健康や防災、エネルギー、環境といった市民生活を取り巻く様々な分野での連携を深めながら、将来に向けて、持続力と回復力のある力強い地域社会、市民が安心して快適に暮らすことができるまち、「スマートシティ会津若松」を目指して様々な取組を進めています。

こうした状況を踏まえ、私たちは、一人ひとりの行動が地球環境に影響を及ぼしていることや、私たちが生活する上で、環境の保全は欠かすことのできないものであることを認識し、**環境を守りながら、快適で豊かな生活を目指すこと（＝スマート）が重要**となります。

本計画では、この『スマート』な考え方や行動規範を基本とし、自然や生活環境を良くしていく取組、ムダのない省エネルギーに配慮した生活、再生可能エネルギーの活用などを、市民や事業者、行政が連携・協働し取り組むことにより、自然環境と事業（経済）活動、日常生活とが調和した社会を目指します。



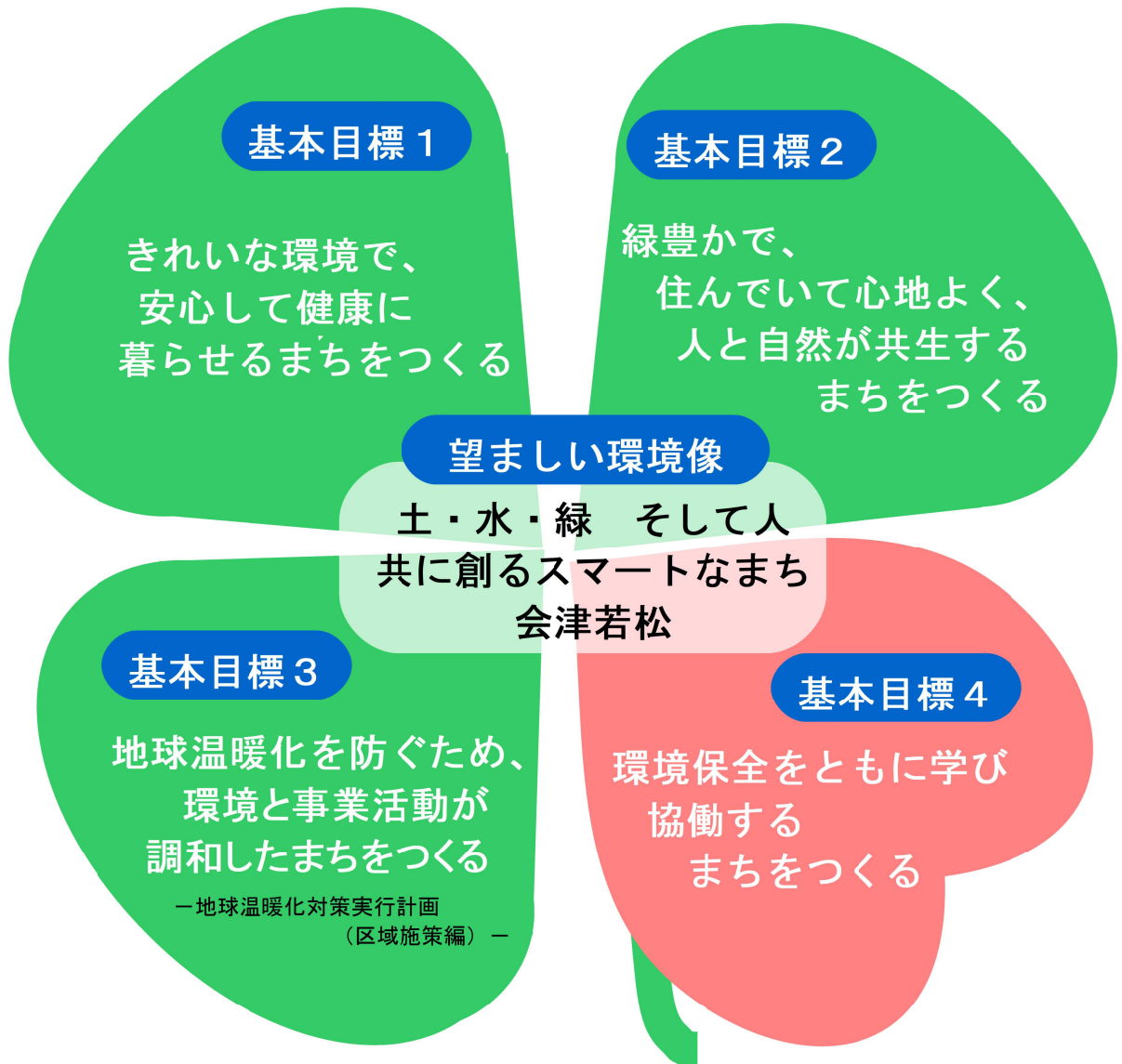
『規制』から『調和』へ

望ましい環境像

「土・水・緑 そして人 共に創るスマートなまち 会津若松」

2. 環境基本計画の基本目標と個別目標

「望ましい環境像」を実現するため、以下の「基本目標」と「個別目標」を設定します。



基本目標の実現に向けた個別目標

基本目標 1

- 1-1 空気や水がきれいで安心して暮らせるまち
- 1-2 環境と生活スタイルが調和した快適なまち
- 1-3 放射能の不安のない安心なまち

基本目標 2

- 2-1 豊かな自然環境を守り、育てるまち
- 2-2 美しい里山と農地を守り、活かすまち
- 2-3 猪苗代湖の水環境を守り、次代に引き継いでいくまち
ー猪苗代湖水環境保全計画ー

基本目標 3

- 3-1 再生可能エネルギーの地産地消ができるまち
ー新エネルギービジョン、バイオマス活用推進計画ー
- 3-2 みんなでCO₂を減らすまち
- 3-3 再生可能エネルギーとICTを活用したまち
- 3-4 「もったいない」が息づくまち

基本目標 4

- 4-1 みんなで考え、みんなで学ぶまち
- 4-2 協働の輪を広げ、環境にやさしいまち

3. 平成30年度 環境目標進捗状況一覧

【H30(2018)年度 前年度との比較】 ↗…状況が良化している →…状況は横ばい ↘…状況は良化していない

【H30(2018)年度 目標達成状況】 達成…R5(2023)等目標達成 ○…H30(2018)中期目標達成

個別目標	環境目標		現状値		進捗状況		目標		
			H24(2012)	H30(2018)	前年度との比較	目標達成状況	H30(2018)	R5(2023)	
							中期目標値	目標値	
基本目標1	1-1	水路への油漏れ事故等の件数	9件	14件	→		5件	0件	
		地下水の有機塩素化合物未検出率	56%	89%	↗	○	78%	100%	
	1-2	河川の水質の環境基準達成率	71%	100%	→	達成	85%	100%	
		汚水処理人口普及率	79.7%	84.9%	↗	○	83%	87.9%	
		自動車騒音に係る環境基準の達成率	100%	100%	→	達成	100%	100%	
	1-3	毎時0.23μSv(追加的被ばく線量の推計が年間1mSv)を超える地区の数	7地区	0地区	→	達成	0地区	0地区	
放射線の影響を不安に感じる市民の割合		44.8%	31.0%	←		10%	0%		
基本目標2	2-1	森林施業面積	1,347ha	1,854ha	↗		2,017ha	2,267ha	
		自然環境や動植物の保護を行う市民の割合	21%	10.5%	←		45%	60%	
	2-2	環境保全型農業直接支援対策事業の対象面積※	(H27) 5,987a	3,691a	↘		—	(R8) 7,000a	
		担い手に集積された農用地の面積割合	59.1%	77.6%	↗		—	(R8) 78%	
	2-3	農業集落排水施設水洗化率		赤井:97.0% 共和:90.4%	赤井:98.9% 共和:93.0%	↗	○	赤井:97.6% 共和:91.0%	赤井:100% 共和:94.8%
		高度処理型浄化槽の普及率		25.9%	30.0%	↗		36%	45%
		猪苗代湖・流域清掃活動参加者数		514名	417名	↘		580名	600名
		中田浜	COD	0.7mg/ℓ	1.2mg/ℓ	↗		0.7mg/ℓ以下	0.7mg/ℓ以下
			全窒素	0.18mg/ℓ	0.13mg/ℓ	↗	達成	0.2mg/ℓ以下	0.2mg/ℓ以下
			全リン	0.011mg/ℓ	0.005mg/ℓ	↗	達成	0.01mg/ℓ以下	0.01mg/ℓ以下
		赤井川	BOD	1.4mg/ℓ	1.4mg/ℓ	↘		1.3mg/ℓ以下	1.2mg/ℓ以下
			全窒素	1.24mg/ℓ	1.21mg/ℓ	↘		1.2mg/ℓ以下	1.1mg/ℓ以下
			全リン	0.093mg/ℓ	0.094mg/ℓ	↘		0.09mg/ℓ以下	0.08mg/ℓ以下
			原川	BOD	0.8mg/ℓ	1.0mg/ℓ	↘		0.8mg/ℓ以下
全窒素	0.53mg/ℓ			0.37mg/ℓ	↘	達成	0.5mg/ℓ以下	0.5mg/ℓ以下	
全リン	0.031mg/ℓ			0.028mg/ℓ	↘	達成	0.03mg/ℓ以下	0.03mg/ℓ以下	
基本目標3	3-1	再生可能エネルギーの供給目標値(熱量換算)	太陽光発電	(H22) 20.3TJ	(H27) 87.8TJ	↗		152.3TJ	344.3TJ
		太陽熱利用	(H22) 0.3TJ	(H27) 0.5TJ	→	達成	0.5TJ	0.5TJ	
		風力発電	(H22) 0.0TJ	(H27) 381.5TJ	↗		516.7TJ	750.1TJ	
		水力発電	(H22) 6,206.7TJ	(H27) 6,134.5TJ	↘		6,219.5TJ	6,245.3TJ	
		うち小水力発電(1,000kW未満)	(H22) 61.2TJ	(H27) 61.2TJ	→		74.1TJ	99.8TJ	
		地熱発電	(H22) 0.0TJ	(H27) 0.0TJ	→	—	0.0TJ	0.0TJ	
		うち地熱/バイナリー発電	(H22) 0.0TJ	(H27) 0.0TJ	→	—	0.0TJ	0.0TJ	
		バイオマス発電	(H22) 0.0TJ	(H27) 390.4TJ	→		392.3TJ	392.3TJ	
		バイオマス熱利用	(H22) 12.8TJ	(H27) 14.5TJ	↗		147.5TJ	417.1TJ	

個別目標	環境目標	現状値		進捗状況				目標	
		H24 (2012)	H27 (2023)	H30 (2018)		H30 (2018) 中期目標値	R5 (2023) 目標値		
				前年度との比較	達成状況				
基本目標 3	再生可能エネルギーの供給目標値(熱量換算)	バイオマス燃料製造	(H22) 2.1TJ	(H27) 2.0TJ	→		2.4TJ	3.1TJ	
		温度差熱利用	(H22) 6.8TJ	(H27) 12.3TJ	↗	達成	7.2TJ	7.2TJ	
		雪氷熱利用	(H22) 0.0TJ	(H27) 0.0TJ	→		0.0TJ	0.0TJ	
		計	(H22) 6,249.0TJ	(H27) 7,023.6TJ	↗		7,438.5TJ	8,160.0TJ	
		一次エネルギー需要	(H22) 15,976.5TJ	(H27) 14,977.1TJ	↗		14,585.3TJ	14,245.8TJ	
		一次エネルギー需要に占める再生可能エネルギー供給量の割合	(H22) 39.1%	(H27) 46.9%	↗		51%	57%	
	バイオマスの活用目標	廃棄物系バイオマス	生ごみ利用率	(H22) 27%	19%	↘		40%	50%
			下水汚泥利用率	(H22) 23%	70%	↘	達成	60%	60%
		未利用系バイオマス	廃食用油利用率	(H22) 26%	55%	→	○	40%	60%
			間伐材利用率	(H22) 0%	39%	↗	達成	17%	20%
	3-2	省エネ診断等の受診施設数(平成21年度からの累計)		(H22) 4件	32件	↗		45件	70件
		各家庭における節電・節水等の省エネ取り組み率		76%	72.8%	—		85%	100%
		エコドライブ宣言者数		(H22) 164名	357名	↗	○	250名	450名
		「福島識読書事業」参加団体数(市内)※		(H29) 事業所:92 学校:21	事業所:98 学校:18	↗		—	事業所:230 学校:50
		「エコチャレンジ事業」参加世帯数(市内)※		(H29) 117世帯	200世帯	↗		—	500世帯
3-3	電気自動車・プラグインハイブリッド車台数		(H22) 5台	329台	↗		800台	8,000台	
	充電器設置数(一般家庭除く)		(H22) 6基	33基	↘	○	27基	40基	
3-4	1日1人あたりのごみ排出量		1,222g	1,250g	↗		—	1,031g	
	総リサイクル量		13,038t	11,852t	↘		—	13,000t以上	
基本目標 4	4-1	環境教室(子ども向け・市民向け)参加者数		117名	126名	↘		300名	450名
		環境関連の出前講座の実施回数		37回	19回	↗		45回	50回
	4-2	環境関連イベントの参加者数		5,191名	4,104名	↘		6,000名	7,000名
		公園等緑化愛護会数		84団体	80団体	↘		85団体	85団体

※第2期環境基本計画(改訂版)から新たに追加した環境目標

4. 市域全体の温室効果ガス排出量(推計値) 状況一覧

部門	現状値	進捗状況				目標	
		H22 (2010)	H27 (2015)	H27 (2015)		R5 (2023)	
				H22 (2010)比	前年度比	排出量	H22 (2010)比
産業部門	233.2	275.0	17.9%増	1.7%増	298.4	28.0%増	
民生家庭部門	219.2	243.5	11.1%増	7.3%減	233.3	6.4%増	
民生業務部門	297.3	326.9	10.0%増	2.6%減	264.2	11.1%減	
運輸部門	176.1	179.1	1.7%増	3.7%減	166.3	5.6%減	
その他	92.8	132.4	42.7%増	115.0%増	40.0	56.9%減	
再生可能エネルギーの導入による削減量	—	-44.2	—	49.3%増	-118.6	—	
計	1,018.6	1,112.7	9.2%増	2.4%増	883.6	13.2%減	